

「機会を十分に活かす知恵者」

エペソ人への手紙 5 : 15 - 17

March.2.2025

エペソ人への手紙 5 : 15 - 17 (パウロ)

Preface

私の尊敬するある牧師先生が、牧師を引退されてからしばらくして、癌になりました。

始めは肺がんでしたが、それから3年半の間転移して、前立腺がんとう甲状腺がんにかかりました。

吐き気、嘔吐、脱毛、味覚障害と生きた心地のしない抗がん剤治療を受ける間、体ばかりか、心も、たましいも、すべてが疲弊しきって、怒り、苛立ち、不安、鬱々とした毎日、まるで癌に満ちているような日々でした。

癌の治療について知るために、YouTube の動画を検索し、本で癌について調べ、癌についての知識で、毎日を満たして行けば行くほどに、たましいは枯れて行きました。

そんな時、ご自身が牧師として教会で働いておられた頃、毎朝の早天祈祷会で説教をするために向き合っていた聖書の御言葉に毎日励まされ、喜び、楽しんでいたことを思い出されました。

「もう長くはないかもしれないこのいのち。癌に満たされて終えるわけにはいかない。この与えられたいのちを、機会を浪費することなく、十分に活かし、(豊かにより良い) 幸いな暮らしをしていくために、もう一度神の言葉に満たされ、神の言葉を人々に伝える喜びを最後まで全うしよう」と一念発起されて、毎朝5時30分に、聖書の御言葉の説き明かしを YouTube で発信するようになりました。

私も時々その配信を見るのですが、つい最近、その YouTube での御言葉の説き明かしが5周年を迎えました。

その間も辛い闘病生活をしてこられました。去年の中頃に、「完全寛解した」という医師の診断を受けて、今も喜んで、毎日聖書の御言葉の説き明かしを発信しておられます。

この先生が一番辛い時期に、改めて出会い、新しい神の御声として迫ってきた言葉が、今日の聖書箇所エペソ書 5 : 15 - 17 の御言葉でした。

「愚かにならないで、知恵のない者としてではなく、知恵のある者として、機会を十分に活かさない」という言葉が、神の声として迫って来たそうです。

そして、「こうしてはいられない。今、私自身どのように歩んでいるのか細かく注意を払い、知恵のない者としてではなく、知恵のある者として、聖書の言葉から主のみこころが何であるかを悟り、この機会を十分に活かさなくちゃ。

怒って、苛立って、鬱々としたところで他者との関係が悪くなるばかりで、

それを回復させるためにはまた時間が掛かるし、貴重なのちの時間をそんなことに奪われるのは悔しい。だから、神さま、どうか私が苛立たないように、いらいらしないようにさせて下さい」と祈ったそうです。

Part One

「知恵のある者として、機会を十分に活かさない」と神さまからの御言葉をこの牧師先生は頂きましたが、では、「機会を十分に活かす」とはどういうことでしょうか。

私たち普通、機会、チャンスと言いますと、「機会やチャンスは逃しちやならない」という教訓のようなことを聞きながら育ってきたように思います。

学校の先生も言っていたような気がしますし、どこかの教会の礼拝説教でも聞いたことがあるような気が致します。

「人には誰にでも、人生で大きな3回のチャンス機会が来る。でも、そのチャンスという代物は、前髪はふさふさで長いけれども、後頭部は剥げていて、後ろ髪を掴もうとしても、時すでに遅しで掴むことが出来ない。だから、機会が来た時にしっかり掴み捉えることが出来るようにしましょう」というような話です。

「ああ、そうなんだ。僕も、その機会とやらをしっかりと掴んでいかなければならないなあ」と漠然と思っていたのですが、今日の聖書箇所、神の言葉を見ますと、違うことを言っています。

「機会を十分に活かさない」と、そこにすでに「機会がある」ことを前提に話します。

「機会は掴み捉えなければならないものではなく、もうすでにある。機会は与えられている」と語って下さいます。

「ああ、そうなんだ」と、深い悟りを与えられるような思いがしました。

つまり、「掴まなければ消えて無くなってしまふ、捉えなければならないチャンス、たった3回だけの機会」、これは偽物、偽りだということです。

私たちの人生は、たった3回の機会だけで決まるものではありません。

そして、チャンスは、機会は捉えなければならないものでもありません。

主なる神さまが、いつでもずっと、与え続けておられるのが機会、チャンスです。

これを例えるとするならば、家の水道の蛇口に例えることが出来るかなあと 생각합니다。

ダムでも、川でも、湖でも、または貯水池でも、水を運ぶパイプラインに乗って家の蛇口まで繋がっていますが、私たちの家の水道の蛇口を捻ると、何分後に水が出てきますか？ 水が出て来るまで、何分ぐらいかかりますか？

この質問自体が変な質問ですよ。

直ぐ出てきます。 蛇口を捻ったと同時に、水が出てきます。

どういう意味でしょうか？

川でもダムでも水がある大きなところから、我が家の水道の蛇口の先まで、水が途切れなく詰まっている、流れているということです。

唯一まことの神様は、私たちの人生の中に、一部の隙も無く、神の恵み、祝福、機会を絶え間なく満たしておられるということです。

英語の聖書を見ますと、「恵み」という言葉は **grace** とも訳されていますが、**unfailing love** とも訳されています。

「失敗しない愛、絶え間ない愛、連続した尽きるのことはない愛」、これが神の恵みですね。

ですので、機会というものは待つて捉えなければならないものではなく、蛇口を捻ればいつでも出て来る準備が出来ている、蛇口を捻って出せばいいだけだということです。

なのに、もしかすると、蛇口を締めたまま、機会を浪費しているのではないかとも思うのです。

「あなたが幸せに、豊かに、より良く生きるために、機会を十分に活かす知恵のある者であるためには、捉えなければならない後頭部が剥げたようないびつな機会を待つのではなく、既に与えられている機会を十分に活かさない」と語られているように思います。

ところが、ちょっと考えますと、この言葉納得がいきそうで、納得がいきません。

「すでにあるチャンス？ すでに与えられている機会？ 本当に機会が私の人生、いっぱい満たされているのか？」

合点がいかない気が致します。

だって、先程の牧師先生は、三種類もの癌にかかったのですから。

癌という病のどこが機会でしょうか？

完治した、寛解したとなれば、「また機会が巡って来た、与えられた」と言えるでしょう。

でも、苦しい闘病中において、何の機会が、チャンスが与えられているというのでしょうか。

「事業に失敗し、試験に落ち、事故や災難に見舞われ、たくさんの苦難と傷と困難の中に今まさにいるのに、神さまが何の機会を与えて下さっていると言うのだろうか？」

でも、これは違いますね。

神さまが失言されるようなことはないはずですよ？

すでにある機会。

私の人生は、確かに機会がいっぱいに満ちていて、神さまはどんな時でも、

試練とともに脱出する道を備えていて下さり、やり方を教えて下さり、直面している問題を生き抜くそのところに、主なる神さまのみこころがあるということです。

Part Two

「では、どのようにすれば、すでにある与えられている機会を良く用いることが出来るのだろうか？」と考えた時、大切になってくる言葉がエペソ 5 : 17 の

エペソ 5 : 17 (パウロ)

「主のみこころが何であるかを悟りなさい」という言葉だと思えます。

すべてのことには、主のみこころが、御旨があるということです。神さまは、私たち人間を誰一人として放っておかれることはありません。聖書の御言葉の始めから最後まで、ずっとそのことを語ります。

詩篇 33 : 13 - 15 (パウロ)

使徒の働き 17 : 25 - 28 (パウロ)

主なる神さまは誰一人として放っておかれる方ではありません。例え、死の影の谷を歩むとしても、主のむちと杖がともに行きます。死の影の谷のようなところでお語りになり、教えて下さいます。その問題を解くことの出来る方式を、方法を示して下さい。神の言葉、神のみこころを悟るならば、どんな歩みの中でも脱出の道が備えられていることを知り、自由を覚えることになります。

そうして、その死の影の谷が変わり、機会となります。

詩篇 119 篇の言葉、「苦しみにあったことは、私にとって幸せでした。それにより、私はあなたのおきてを学びました。あなたはいつくしみ深く、良くして下さいのお方です。」

苦しみにあった時、神さまの言葉を学んだら、悟ったら、その苦しみが益となった、機会となったと言うのです。

神のみこころをいつも考え、悟るならば、すべてのことが機会となります。

「神を愛する人のためには、すべてのことがともに働いて益となるのです」とローマ書にある通りです。

だから私たち、機会を待つ必要はありません。

神の言葉を通して、神のみこころを悟り、神のみこころのままに準行すれば、苦しみまでもが機会となり、祝福となります。

真つ暗闇のような困難に直面した時、誰も助けてあげることが出来ないような時、私自身やることは、机の上に聖書を置き、ペンを置き、メモ用紙を置いて、待ち望むような気持ちで一言祈り、聖書を開き、読みます。

頭を抱え、うめきしか出て来ず、不安と恐さに押しつぶされそうになる時、ただ聖書を開きます。

すると、読んでいるその神さまの言葉が、我が事のように迫って来て、読んでいるところ以外の聖書の言葉も頭の中に浮かんでいきます。

そして、書きます。メモります。

すると、そこに道が表れます。

「この道に進みなさい。このような方法でその問題を解いていきなさい」という神様のみこころが表れます。

すると、ここで、光が差すような感じになるのでしょうか？ それとも、さらに暗さが増すのでしょうか？

もっと暗くなります。

なぜならば、私の思いや考えと神さまの思いやお考えとは違うからです。

主のみこころは、私たちに狭い道を進ませることであり、十字架を負わせる道だからですね。

聖書の言葉を通し、祈りを通し、そのことを悟り捜し当てますと、神さまが「答えだ」と言って下さったのに、その答えを見ますと、「ああ、主よ。あなたは私に生きろと仰るのですか、それとも、死になさいと仰るのですか？ 神さまが道を見せ、開いて下さったのに、広い道ではなく狭い道なので、ただでさえ死にそうなのに、さらに、狭い道に行けと仰るのですか…」という時があります。

でもそんな時、私は、神さまを信じます。

私は、神さまを理解しようとは思いません。そして、また呻きます。

「主よ、私は主であられるあなたが正しいと信じます。でも、理解は出来ません。あまりにも、辛い大変な道をお示しくださいましたが、でも、私の進むべき道はこの道しかありません。イエス様、この道を進ませてください。この道に従って、生きられるようにして下さい」と祈ります。

そうしてその道を進みますと、「直面しているそのことを、神さまが望んでおられるように解いて行こう、解いて行きたい」という思いが少しずつ生じて来ながら、その時々適った恵みを頂きます。

旧約聖書でエステルが「私は、死ななければならぬのでしたら死にます」という神のみこころを悟った方法で、直面している問題を解いて行きますが、私自身も、イエス様お話し下さる道に従って、目をつぶって、死ぬ覚悟で進みます。

すると、驚くことが起こります。

「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中をあゆむことがな

く、いのちの光を持ちます」(ヨハネの福音書 8 : 12)、
「人々は三日間真っ暗闇で、互いに見ることも、自分のいる場所から立つこともできなかつた。しかし、イスラエルの子らのすべてには、住んでいる所に光があった」(出エジ 10 : 23) というようなことが起こります。

すみません、時間が無く、具体的にはお証し出来ませんが、数多の証しがあります。皆さんにも御有りだと思います。

苦しみにあったことが、むしろ、祝福になります。

証しとなり、恵みとなり、それが、私自身の人生の機会となることを悟りませぬ。

Part Three

愛する皆さん、私たちは、機会を待ちながら生きているのでしょうか。

もしかするとそれは、機会を生かしていないことになるかもしれません。

機会は、すでに、いつも、私たちの普通の日常の暮らしの中にあると、教えて下さいます。

苦難もあり、逆境もあり、成功もあり、失敗もありますが、その中にある神様のみこころを悟るならば、すべてのことが機会となり、祝福となり、私たちの人生に浪費や無駄はありません。

でももし、勝利し、成功し、何か物事上手く行き、世にあつて幸運のようなことがあつたとしても、その中にある神のみこころを尋ねないならば、神のみこころを悟らないならば、それが私たちにとって怒りとなり、苛立ちとなり、不利益と化してしまうことでしょう。

ルカの福音書 12 章を見ますと、愚かな金持ちの話が出てきます。

その人は、類を見ない大豊作を経験し、その得た作物を新しい大きな倉庫まで作って、積み上げるかのようにしまっておきました。

そして、自分のたましいにこう言いました。

「わがたましいよ、これから先何年分もいっぱい物が貯められた。さあ休め。食べて、飲んで、楽しめ。」

ルカの福音書 12 : 16 - 21 (パワポ)

「なぜ神さまは、こんなにも私を裕福に下さったのか？ なぜこんなにも大きな大豊作を賜わって下さったのか？」を主なる神様に尋ねませんでした。自分の欲望だけに従って、自分のたましいだけのことを考えました。

「我がたましいよ、さあ休め。食べて、飲んで、楽しめ」と言えるほどの特別な富を頂いたのに、むしろ、それが彼にとって呪いとなりました。

そしてその夜、いのちが取り去られてしまいました。

「いい暮らし」という言葉がありますが、「いい暮らし」とは何でしょう

か？

いい暮らし、幸いに生きる、豊かに生きるとは、既にある機会を十分に活かすために、神さまの御言葉を通して神のみこころを悟ること、それが、知恵のあるものの生き方であり、真のいい暮らしであり、唯一の道であると信じます。

神の言葉の中に、イエス様の言葉の中に、神のみこころがあります。

神の言葉の中に、イエス様の言葉の中に、私たちの進むべき道が具体的にあります。

これまで誰も生きたことのない、今日という日を良く生きるための方法を具体的に教えて下さいます。

ただ、「言うは易く、行うは難し」という言葉がありますが、聖書の言葉は、「聞くは易く、生きるは難し」だとも思います。

それでも聞いたならば、どんなに難しくても、目をつぶって進み始めますと、愛する皆さん、そのすべての歩みが、機会に満ち溢れることでしょう。

神を愛する者のためには、すべてのことがともに働いて、益となることを私たちは知っています。

困難さえも、痛みさえも、苦しみさえも、祝福の機会となることでしょう。

その時私たちは、本当の意味でいい暮らしをしている人、機会を十分に活かす人、知恵ある者として歩む人となっていることを信じてやみません。

Conclusion

いつも主のみこころを悟り、神さまの方法で生き、すべての人生を取り巻く環境や逆境の中にあっても、いつも喜び、主イエスにある勝利を実感する私たち、皆さんであることをお祈りいたします。

どうか神さまに、道を尋ねてください。

イエス様に、方法を尋ねてください。

聖霊様に、神のみこころを尋ねてください。

聖書の言葉と祈りを通して。

そして、道が示され、方法が思い浮かび、みこころを知ったならば、進んで行ってください。

すると、その人生が、一瞬たりとも浪費ではない、いつでも機会を十分に活かす豊かに生きる人、知恵のある者としての歩みを実感出来ることを信じます。

お祈りいたします。

祝祷：エペソ 5：15－17